



奈良町の
ちょっといいところを
見て知る秋の1週間
—きたまち・ならまち・高畑・京終・紀寺—

見奈良町



2024
11/4_{月休}▶10_日
場所：奈良町一帯

2024年度
事業報告書
奈良町見知ル実行委員会
奈良市



目次

奈良町のちょっといいところを見て知る秋の1週間 奈良町見知ル 2024

企画趣旨	1
第1部 奈良町見知ル 開催報告	2
Newsletter 特別号① 特集：見ル奈良町	
Newsletter 特別号② 特集：知ル奈良町・巡ル奈良町	
Newsletter 特別号③ 特集：巡ル奈良町	
Newsletter 特別号④ 特集：写真集	
第2部 奈良町見知ル 2025 データ資料	14
来場者／参加者数	
参加者アンケート結果	
綴って見知ル	
第2部 奈良町見知ル 開催までの歩み	28
Newsletter No.17 第1回実行委員会／2024年4月26日（金）	
Newsletter No.18 第2回実行委員会／2024年5月24日（金）	
Newsletter No.19 企画説明・交流会／2024年6月14日（金）	
Newsletter No.20 第3回実行委員会／2024年6月28日（金）	
Newsletter No.21 第4回実行委員会／2024年7月26日（金）	
Newsletter No.22 第5回実行委員会／2024年8月23日（金）	
Newsletter No.23 第6回実行委員会／2024年9月27日（金）	
Newsletter No.24 ボランティア交流会／2024年10月6日（金）	
Newsletter No.25 企画参加者・ボランティア・実行委員お疲れ様会	
奈良町見知ル 2024 を終えて	47
実行委員会等の開催記録	47

企 画 趣 旨

奈良町のちょっといいところを見て知る秋の1週間 奈良町見知ル Naramachi Mishiru2024

奈良町のきたまち、ならまち、高畑、京終では、各エリアの特色を探りつつ、それを「まちの個性」としていかした「まちづくり」が行われています。これらのエリアにある歴史的建造物・社寺・生業の場所といった「地域の宝」となっている「ちょっといいところ」について、見て知る巡ることができます「奈良町見知ル」を開催します。

このイベントは、多くの人が奈良町の「ちょっといいところ」を知り、地域に足を運ぶきっかけを作ること、また、そこに暮らす人たちが「まちの魅力」を再発見する機会となること、さらに各エリア相互に「まちの個性」を理解し合うこと、奈良町全体の魅力発信につなげていくことを目的に実施します。第一回開催は2022年で、今年度は4回目の開催となります。

実施期間

2024年11月4日（月祝）～10日（日）の7日間

企画内容

見ル奈良町（特別公開）	「地域の宝」となっている「ちょっといいところ」の公開
知ル奈良町（特別イベント）	奈良町の「ちょっといいところ」や各エリアの魅力に触れるイベント
巡ル奈良町（まちあるき）	奈良町見知ルのスポットを中心に「ちょっといいところ」を巡って楽しむ企画
連携企画	奈良町見知ルの期間中や期間前後で行われる企画で、奈良町見知ルの趣旨に関連する企画の広報連携

企画の対象

奈良町（きたまち、ならまち、高畑、京終・紀寺）に所在する歴史的建造物、社寺、生業に関わる場所や展示など

第 1 部

奈良町見知り 開催報告



奈良町見知ル実行委員会

Newsletter 特別号①

特集：見ル奈良町

見ル

A 史跡 北山十八間戸



2日間で計176名の方々にお越しいただきました。観光客だけではなく、近隣住民の方々にも北山十八間戸の内部をご覧いただき「初めて中を見た」「近くを通るたび気になっていた」といった声を頂戴しています。

また、天候にも恵まれ、来場者どうしで交流される場面も見受けられ、とても温かな雰囲気の中での特別公開となりました。

昨年度と同様、来場者からたくさんの質問をいただき、北山十八間戸という史跡の魅力を伝える貴重な機会となりましたと実感しています。

(奈良県 文化財課 寺西 勇輝)



B 五劫院

五劫院の御本尊、五劫思惟阿弥陀様はとて有名で、日頃公開されていないこともあり、特別公開の時間前から待っておられる方もあり、期待度の高さを感じました。御朱印の希望者も多かったです。こじんまりしたご本堂ということもあってか、見学に来られた方に話しかけられる場面も多かったように思います。お寺の歴史や仏像について詳しく説明できればもっともっと喜んでもらえたかなと感じました。

また、五劫院の方にお寺について教えて頂いたりお話しする機会にも恵まれました。微力ながらもお役に立てる事が嬉しくボランティアの醍醐味を感じています。充実した時間を過ごさせて頂きありがとうございました。

(ボランティア 小竹 豊子)



C 奈良県指定有形文化財 旧細田家住宅



旧細田家住宅を9日と10日に公開し、小さなお子様連れの方や、年配のご夫婦など、多くの方がお越しくださいました。建物内の牛小屋をご覧になって、牛といっしょに暮らしていたことに驚かれたり、かまどや「煙返しの大梁」の大きさに感心されたりしていました。「とても素敵な建物」「静かな心落ち着く懐かしい空間」といったご感想も頂き、お楽しみいただけたようでうれしく思います。お世話になりました皆様に御礼申し上げます。

(奈良市教育委員会 文化財課 石田 淳)



D 登録有形文化財 佐埜家住宅



来訪者は、50代からの女性、夫婦が多く来られ、杜園の坪庭を見ていただくのですが、刀剣の鑑賞をする方も結構おられました。この機会の奈良を知って頂くとともに当店に入店していただけるのでありがたいです。

(ならまち刀剣ショップ 杜園 佐埜 好英)



E 法徳寺



一日だけの公開でしたが、特別公開の時間になった直後にどどっと人が来られ、楽しみにしてくださっていたのかなとうれしく感じました。来場者77人のうち、外国人はポーランドの方2人のみ。あとは日本の方ばかりでした。法話も行い、好評でしたが、もっと早めに行ったほうがたくさんの方に聞いてもらえたように思います。ちなみに14時からの法話を聞かれた方は14人、15時半からの法話を聞かれた方は7人でした。

(さんが侘座 大下 誠二)

F 重要文化財 今西家書院



奈良町見知り参加、3回目です。会期中、鹿の写真を展示しました。週末はお天気にも恵まれ、鹿好きの方、奈良町散策を楽しまれる方で賑わいました。見知りをご存じない方も受付で説明すると興味をもってくださいました。終盤はシール目的のお客様が増えるほどシールラリーは有効でした。メッセージボードも館内に馴染んでいました。海外のお客様には企画内容をうまく伝えられなかったことが残念でした。

(今西家書院 今西 靖子)



G 庚申堂



2日間と短い期間ながら、多くの方にご来場いただき感謝しています。庚申堂の歴史を学ぶ中で、「石像を彫った彫り師の名前が自分と同じ」という偶然に驚き、歴史との意外な繋がりを感じました。来場者の皆さまと交流しながら新たな発見を得たり、地域の文化や人々の思いに触れる貴重な機会となりました。このイベントを通じて、地域の歴史や魅力を共有する楽しさを実感し、次回はさらに多くの方に楽しんでいただける工夫をしたいと思っています。

(西新屋町自治会長 植嶋 秀文)

当日は朝寒かったのですが、陽が登ると汗ばむほどの陽気になりました。6時間で約150名の方に足をとめて頂きました。みしるスタンプラリーのシール集めに来られた方も多かったです。また、外国人観光客の方も多数いらっしゃいました。彼らの中には

スマホの音声通訳を使って質問される方もおられました。庚申さんの由来と三尸の虫の話は、多くの方が笑いながら興味を持ってくださいました。その笑い声に、また立ち止まってくださる方が生まれる良い循環もあったように感じました。

地元の方にとって、今でも庚申堂が暮らしの中にある感じが伝えられたいもっと面白いだろうなと思いました。

(きたまちコンセント 吉田 龍太)



H 史跡 元興寺塔跡

元興寺が一つの大伽藍だったことを知っていただく機会になりました。当寺院は奈良町見知りへの今回初めての参加でした。おかげさまで、若い方からシニアの方まで幅広い年齢層の方々にお越しいただくことができ、スタンプラリーの効果はすごいものだと実感致しました。時代を経て3つの寺院に分かれて今に至りますが、元は飛鳥からやってきた日本仏教普及のはじまりの一つの同じ大寺院であったことを多くの方に知っていただく機会が見知りが増えていけば幸いです。皆様ありがとうございました！

(華嚴宗元興寺 住職 池田 圭誠)



I 奈良県指定有形文化財 志賀直哉旧居 (奈良学園セミナーハウス)

今年は天候にも恵まれ、会期中の来館者は昨年の約2倍となり、大いに賑わいました。今年二回目のシールラリーに参加される方も去年よりぐんと増えた印象です。来館者は、年配のご夫婦や女性のグループが多かったように感じました。また外国人観光客の来館も去年より増えました。

(志賀直哉旧居館長 大原 荘司)



J 関伽井庵



今年ではじめて奈良町見知れに参加しました。

ふだんは法要をする日以外は開けており、どれだけの方がお越しになるかと思っておりました。NHKでも紹介され、予想を超える多くの方に参拝いただけました。芳名帳に残された多くの方々のお名前を見るにつけ、本当にたくさんの方に関伽井庵を知って頂く機会を作ってください、嬉しく思います。

(関伽井庵住職 森田 康友)

関伽井庵の限定公開の案内に参加しました。お供えのお水を汲む井戸という意味の関伽井。まさか、あんな所にあったとは！中に入ると、心穏やかになるたけずまい。阿弥陀如来様と向き合う、特別な時間を過ごしながら昔の人々の暮らしに思いを馳せました。

来訪者の皆さんの中には、先代の住職との思い出を語られる方も。来年も初めての方に関伽井庵を訪れて親しんで頂き、感想などを発信出来たら良いなと思いました。

(ボランティア 滝井 敏弘)

いつも閉まっている扉が空いているので何だろうと見に来たという方や、当日が法要日だったので納経されにきた方もあり、見知れ以外での地元(高畑町内)の来場者が多かったのには驚きました。

お坊様の話は楽しく若々しく、ふだんお寺に上がって参拝することのないかたにも開かれた行事となりました。個人的には、吉備真備という歴史上の偉人が身近に感じられ、10月4日の真備の法要にはぜひお邪魔したいと思っています。

(ボランティア 徳永 かよ子)

インフォメーションブース



今回も外国人対応には苦戦しました。一度は、物語館のパネルをスマホでGoogle翻訳し、それを読んでもらいました。そして、上記アプリに「読み上げ機能」があることがわかり、それも次に使ってみました。「よくわかった」、と喜ばれました(たぶん)。言葉では通じそうもない方がいたので、実際に靴を脱いで畳に上がって見せたりしました。畳敷きに上がること自体、経験がなかったようで、興奮して喜ばれました。

(ボランティア 徳永 かよ子)





奈良町見知り実行委員会

Newsletter 特別号②

特集：知ル奈良町・巡ル奈良町

知ル

1

大正時代の〈工場跡〉工場跡事務室

a) 工場跡主宰者が案内！産業遺産ガイド（ランチつき）

b) 前近畿産業考古学会会長が案内！産業遺産ガイド（ドリンクつき）



2つのプログラムとも昨年と同様の内容での実施でしたが、一年間で新たに判明した情報を盛り込み最新情報報告会のような形で楽しんでもいただきました。

たまたま11/10NHKEテレ【ふるカフェ系ハルさんの休日】で工場跡が紹介されるタイミングでしたので、収録の様子もお話しし、工場設備の説明に加えて特別に楽しんでいただけたように感じました。

（工場跡事務室 喜多 和夫）



2

かまどの話と炊きたてごはん 旧細田家住宅



旧細田家住宅では、かまどについて、ちょっと深掘りする企画を実施しました。

旧細田家のかまどを囲んであれこれ観察しながら現役の左官職人・宮奥さんのお話をきいたり、卓上のかまど「宇陀かまど」を囲みながらかまどの動画を見たり。参加者のみなさんもとても積極的で、気になることや感想などをすぐに伝えてくださり、和気あいあいとした雰囲気でした。ご飯がうまく炊けるか少し心配でしたが、倉橋さんの水加減がばっちり！お味噌汁と一緒にいただく、炊き立てつやつやのご飯は大変美味でした。

（奈良市教育委員会 文化財課 中村 咲子）

3

まちの人に聴く奈良町の伝統行事 春日若宮おんまつり子供大名行列のお話



毎年、椿井小学校で春日若宮おん祭・お渡り式の最後尾を務める大名行列のお話をさせて頂いております。

今回の奈良町見知りでも依頼がありましたので、次代の大名行列を支える子供大名行列の子供達へお話と体験をする予定でしたが、大人の方の参加が多く、拍子抜けしましたが、年齢を問わず参加頂いた皆さんから楽しかった、勉強になった、おん祭への興味が大きくなったとお声を頂き、お受けさせて頂いた事に喜んでおります。

（春日若宮おんまつり子供大名行列保存会 森 克容）

4 奈良名物きな粉雑煮・朴葉ご飯とお話／旅籠長谷川（ランチつき）



みなさん「おいしい」と食べてくださってうれしかったです。話を聞くと、奈良でもお正月に「きな粉雑煮」を食べているお宅が減っているようです。申し込みくださったのは奈良市内の方が多かったですが、みなさん「初めて食べた」とのことでした。きな粉雑煮や朴葉ご飯のおいしさをさらに多くの方に、できれば奈良の人以外にも広く味わってほしいと願っています。

（旅籠長谷川店主・長谷川 嘉信）

5 奈良のお酒を愉しもう／奈良春日山酒造株式会社



今年のコンセプトは「イベント限定！奈良春日山酒造のお酒無料飲み放題」。私はお酒に関する説明だけを行い、あとは各々セルフサービスで自由にお酒を飲んでいただくスタイルで行いました（手抜きでは決してございません）。昨年同様、今年もいろいろなご意見やご要望、たくさんの笑顔を頂きました。「酒談議に花が咲く」という言葉がぴったりな、たくさんの会話が飛び交う本当に楽しいイベントでした。

（奈良春日山酒造株式会社 森 一成）

6 奈良漬のできるまでと美味しい食べ方講座／奈良屋本店（お土産つき）



この度は多数のゲストの方々に、奈良漬の由来、本来の奈良漬の姿、何を以って奈良漬と呼ぶのか等のお話をさせて頂きました。また世界遺産である春日原始林の湧き水が清らかであった事により、なりまち近辺には多くの酒造蔵があった事、そして当店が面している通りが、通称「清水町」と呼ばれていることなど、奈良漬とその起源に関する事をお話しさせて頂きながら弊店の奈良漬をご試食頂き、有意義な時間を共有させて頂きました。

（奈良屋本店 増田 幸彦）

7 レンガ蔵での醤油造り観て・香って・味わって／井上本店



11/8（金）秋晴れの少し肌寒い中での見学実施となりました。今回の参加者は全員女性で、皆さん醤油・味噌に限らず「食」に興味をお持ちの方でした。醤油造りの話を中心に、製造機械を見たり、作業時の写真を観たり、各工程を廻りながら製造時のうんちくをお聞きいただきました。最後に醤油・味噌の味見をして、楽しくお買い物をしていただきました。非日常の現場を廻ることで見て・香って・味わう、を体感していただけたただけなら、よかったですと思っています。

ご参加の皆様、ご来場ありがとうございました。

（イゲタ醤油（株）井上本店 吉川 修）

8 コミュニティ駅長さんの京終駅舎案内／京終駅舎



毎年恒例となっている京終駅コミュニティ駅長・丸山さんによる京終駅ガイド。スペシャルゲストとしてならまちのアイドル・コールドックのKちゃん・高円芸術高校音楽科の皆様にもお越しいただきました。まず、高円芸術高校の皆様による演奏で盛り上げていただいたあと、丸山さんがパネルや秘蔵の国鉄グッズを使って、京終駅の今昔をご案内しました。普段なかなか知ることができない京終駅の話に、参加された皆さんは熱心に聞き入っていました。
(奈良市 奈良町にぎわい課 黒野 安希子)

巡ル

い まちかど博物館ツアー／きたまち編



転害門で集合し、まずはバスで奈良豆比古神社近くまで。神社と資料館、明治の神仏分離令までは神社の境内にあった善城寺にあった仏像を守ってきた西福寺を宮司の辰巳さんが案内してくれました。クスの大木に感動し、鹿せんべいの武田商店では、武田社長の軽妙なトークと焼き立ての味見にみなさん大喜びでした。最後の植村牧場では黒瀬社長がこだわりの牛舎の説明を。晴天にも恵まれ、ソフトクリームでおいしい締めくくりをしました。

(きたまちコンセント 倉橋 みどり)

ろ きたまち近代建築めぐり



奈良には歴史的な背景などから、奈良特有の近代建築が多く建っています。きたまちにもその流れの中で特有の近代建築がいくつか建っています。今回この点に着目して初めて企画しました。初宮神社社務所で奈良の近代建築について説明した後案内に移りました。参加者は各建物の中に入って紹介したことを喜んでおられました。一方で街並み見学にも時間を取ってほしいとの希望もありました。これらのご意見を踏まえ、来年はさらに充実した企画としたいと思っています。

(なべかつ 瀬渡 比呂志)

は 東大寺国宝建造物の魅力と匠の技を訪ねて



正倉院展開催期間中に転害門観光案内所で模型を使って正倉院や大仏殿の内部構造や柱の組み方等の説明を受け、現地に赴いて現物を見ながら更に詳細な説明を受けたことで、これまで知らなかった建造物の仕組みがよくわかり、昔の職人の偉大さを改めて知ることができました。参加者の皆様も大いに感動され、是非来年も開催して欲しいとの嬉しいお言葉をいただきました。

(転害門前旧銀行建物活用協議会 山口 育彦)

に まちかど博物館ツアー／ならまち編



よく澄んで晴れ渡っている秋空の下、まちかど博物館ツアーはならまちセンターから出発しました。倉橋さんの楽しいガイドにすぐに参加者の緊張もほぐれ、序盤の猿沢池から興福寺に向かう五十二段を登る頃にはすっかり互いに打ち解けていました。なんと普段は扉が閉まっている采女神社の中に入って本殿をお参りできたり、島嘉橋の下に降りてお地蔵様のいる幸川沿いを歩いてみたりと、驚きと感動のならまち散策が進んでいきます。まちかど博物館であるホテル尾花では、同ホテル代表の中野さんに芝居小屋「尾花座」から始まる歴史を写真や資料とともに紹介いただきました。時代の流れ、まちの移り変わりを感じながら、参加者みなでならまちの魅力に触れることができました。

(天理大学 杉山 晋平)



ならまちセンターで集合し、ふだんは見過ごしがちな絵屋橋、嶋嘉橋（幸川地蔵尊の上にかかる石橋だが、川まで降りると橋脚に江戸時代の年号が確認できる）、道祖神社などについて説明しながら、まちかど博物館の「ホテル尾花」へと向かいました。ホテル尾花では、昔この場所が尾花座だったころの賑いと現在までの変遷について、貴重な写真をみせてもらいながら、同ホテルの中野聖子社長にお話をいただきました。知っているように知らない歴史に触れ、すぐ近所に住んでいるという方も喜んでくれました。

(きたまちコンセント 倉橋 みどり)



ほ 中将姫ゆかりの寺院をたずねる



中将姫とならまちをテーマにしたまちあるきは今年が4回目。毎回定員を超える参加があり、今年も14人が参加。ふだんは事前申し込みが必要な高林寺、誕生寺、徳融寺を今年もすべて僧侶の方のお話付きで拝観。最後の徳融寺さんで、ならまちで中将姫伝説が大切に語り継がれてきたのはなぜだろう？という問いかけをしました。毎年コース自体は同じですが、今年は20代の方が二人参加。「とてもよかった」という笑顔に、中将姫伝説が若い層にも響くことを実感できました。

(NPO 法人 文化創造アルカ 倉橋 みどり)

町名由来板を巡ル



元興寺の築地堀があったとされる道筋に沿って町名の由来やグルメ情報、歴史などに触れながら、元興寺の旧境内の広さを体感していただくことができました。

参加者は、「ならまちが好き！」で、何度も来られている方が多くおられましたが、「知らなかったことも多く、新しい発見があった。」と喜んでいただけました。

テレビの影響で、直前の申し込みが増えただけでなく、由来看板作成をしている活動のアピールにもなりました。

(奈良町座 勝井 ひろみ)



参加しました「町名由来板」！自分のほかの参加者1名は、ボランティアガイドをされているかたで、観光客ではありませんでした。

町名由来板は、ならまちの奥深さを教えてくれる引き出しのひとつと個人的には思っています。ならまちを知るには欠かせない、素晴らしいものです。もっとたくさんの方に知ってもらいたいのので、来年は何か、アピールの方法を変えていけるといいと思います。

(ボランティア 徳永 かよ子)

と ならまちに眠る元興寺の礎石を訪ねて（お土産つき）



そもそも「歴史好きの人」をターゲットにしたコアな企画で、参加者は少なかったですが、一人一人の関心が高く、とても熱心に説明を聞いて下さったので、案内のしがいがありました。世界遺産・元興寺では文化財管理室の高橋平明さんの協力

で、国宝本堂のふだんは非公開の床

下に残る礎石も見学させてもらいました。大変貴重な機会だっただけに、この点をもっと前面にPRしたらもっとよかったと反省しています。

(奈良まちづくりセンター 清水 和彦)

ち 高畑・柳生街道をゆく



今西家書院から始まり、各要所で説明を受けながら道中は高畑住民目線で“ちょっといいところ”への寄り道を楽しみ不空院を目指すツアーを行いました。偶然、柿を収穫中の住民に出会いお裾分けを受けたりと素敵な珍道中を挟み楽しそうな皆様の姿が印象的でした。見ル初参加の“閑伽井庵”もコースに含むことで「普段入れない場所を見れて嬉しい」といった声も。

巡る体験を通して、参加者同士・参加者とボランティア同士で交流が生まれたのも良かったです。

(高畑住民 松岡 美希)



リ 大学生がご案内！京終エリアの見知ルを巡る！
／京終駅舎・町屋ゲストハウスならまち・イゲタ醤油（株）井上本店



ゲストを迎えた「懐かしさ・身近にあった生活」がテーマのガイドをして、歴史は「語る人」がいるからこそ面白いと感じました。歴史が苦手、面白さを感じたことがなかった私が、準備でゲストから京終の歴史を教えてもらうと、とても面白く、人に共有したいと思えたのです。また、ガイドでは「学生から聞くから面白い」とのお声も。歴史が「誰かに」語られることで「昔あった事実」から「受け継いできた私たちの暮らし」になったのだと思います。だから面白いのだと学びました。

（天理大学生涯教育専攻2回生

瀬川 芹華）



ガイドを経験した学生は必ず京終を好きになります。生き生きとした笑顔やまちの人の京終への想いに触れ、歴史が苦手な学生も「これは歴史じゃなく、まちの人の生活の積み重ねなんだ！面白い！！」と火がつきました。

その学生が感じた面白さを今回は「懐かしさ」として共有することに。近所の人が持って来たという昔の時刻表、あたたかい親子関係、町家でつる奈良の蚊帳。京終にある、でも、だれもがどこか懐かしさを感じるものを、ゲストが思い出とともに語ることで、最後には参加者同士の思い出ばなしも飛び出す、びっくり箱のようなツアーになりました。ご協力くださった皆様に感謝申し上げます。

（天理大学 社会教育学科教員 田中 梨絵）

私たちは京終エリアのガイドで、三人のゲストを迎えスポットを案内しました。

その中で感じたことは、人の中に地域の魅力があり、その人の語りから魅力が伝わるということです。きっかけは井上本店でのガイド。吉川さんがゲストだったのが、諸事情で息子の井上さんになりました。スポットは同じなのに話し手が変わるだけでこんなにも伝わる魅力が異なるのかと驚きました。それまでは私が頑張って話さなければと思っていましたが、地域の魅力は地域の人に語ってもらうことが大切なんだと気付いた出来事でした。

（天理大学生涯教育専攻2回生

和田 恵歩）

今年は「なつかしさ」をテーマにみんなの思い出を共有できたことで、ガイドや参加者という関係を超えたつながりが生まれたように感じました。町家での蚊帳体験で、ガイドである私たち学生が参加者から蚊帳の取り付け方や入り方を教えてもらう場面がありました。「うちのは緑色」や「蚊をいれちゃうと大変なの」とそれぞれが思い出を語りだし、なつかしいという気持ち伝わってきました。そのおかげか駅までの帰り道は参加者同士で仲良く話す姿が見られ、新たなつながりが生まれたようで嬉しかったです。

（天理大学生涯教育専攻3回生

門内 緋里）

初めて参加させていただきました。閑伽井庵等奈良に住んでいても知らない所を知ることができ、いい経験をさせていただきました。物語館での案内の折、外国人の多さに驚きました。ならまちにも外国人が訪れるようになって来たんですね。訪れた方には英語で町家の案内や、公開している場所の紹介等をしたが忙しかったです。案内する場所には今後、外国語の分かる人がいるといいと思いました。

（ボランティア 宮司 恭子）

ボランティア自体初めての経験でしたのでいらい下さったお客様に十分楽しんで頂けたとは流石に思えませんが、自分自身は楽しむ事が出来ました。積極的に説明をしていただけるお寺などはいいののですが、説明無しの

所なら事前にお渡しする説明書以外の魅力など取説などあれば有り難かったと思いました。

（ボランティア 鈴木 路子）

交流会に参加できたことが何よりアクセルになりました。昨年の経験から、皆さんの奈良愛をイベント前に知れたことが心強かったです。

願わくば、自分の担当したインフォメーションが、各所に対応してくださっている実行委員さん、ボラさんたちが交代のタイミングとかで情報交換できるような「詰め所」（インフォメーション）になれば、もっと密に交流できるかな、と思いました。

（ボランティア 徳永 かよ子）

学生団体「あそぶなら」企画綴って見知ル



今年は新たに京終駅の綴って見知ルボードを作成しました。奈良町見知ルへの出発の地、帰着の地で生まれる感想を綴っていただく試みとなりました。また、物語館インフォメーションブース受付をしていた際、女の子が時間をかけて絵も添えたメッセージカードを描いている姿が印象的でした。

(あそぶなら 森本 凜太)

実行委員会の一員として「学生団体あそぶなら」が関わり始めて、今回で3回目の奈良町見知ルでしたが、企画者だけでなく参加者としても見知ルを楽しんで驚いたことは、まだまだ知らない奈良町があったことでした。来年も奈良町の新しい一面を知ることができることを楽しみに待とうと思います！

(あそぶなら 川頭 史空)



見
知
ル
ナ
ラ
町

奈良町見知ル実行委員会 Newsletter 特別号①②

編集責任者：田中 梨絵（天理大学）
連絡先：r-tanaka@sta.tenri-u.ac.jp



第 2 部

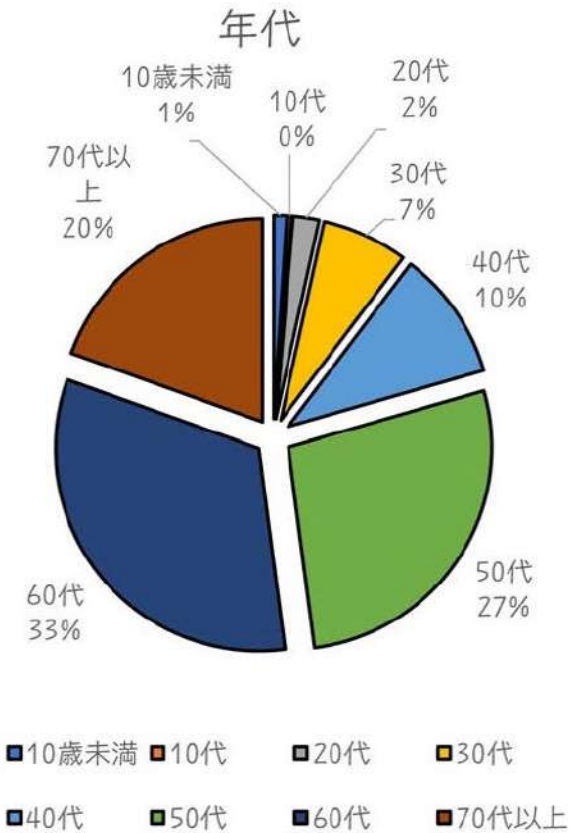
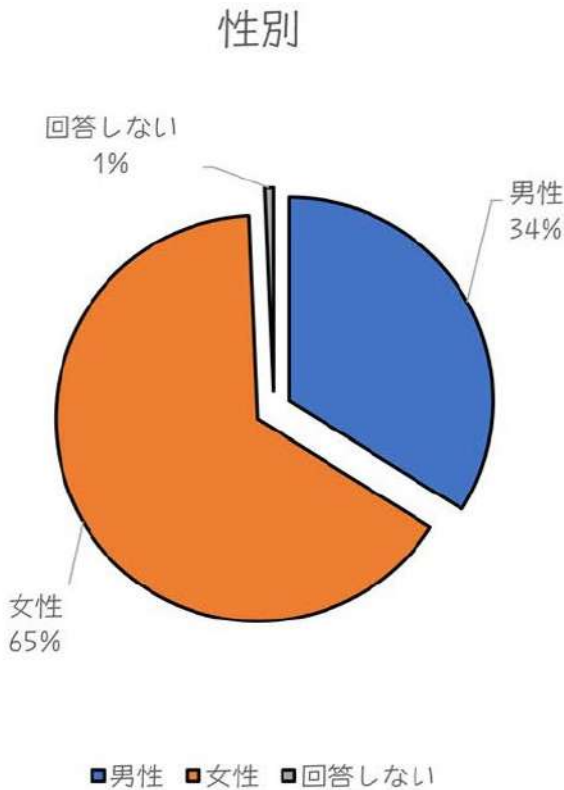
奈良町見知り 2025 データ資料

参加者アンケート結果

回答者数	295 人
------	-------

回答者数内訳

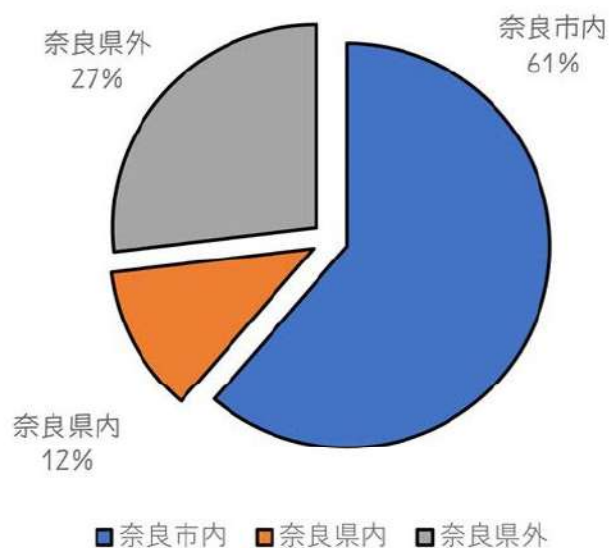
インフォメーションブース		102
知ル奈良町	大正時代のく工場跡＞ 工場跡事務室	
	a) 工場跡主宰者が案内！産業遺産ガイド（ランチつき）	8
	b) 前近畿産業考古学会会長が案内！産業遺産ガイド（ドリンクつき）	4
	かまどの話と炊きたて朝ごはん / 旧細田家住宅	11
	まちの人に聴く奈良町の伝統行事	18
	「春日若宮おんまつり」子供大名行列のお話	—
	奈良名物きな粉雑煮・朴葉ご飯とお話（ランチつき） / 旅籠長谷川	—
	奈良町のお酒を愉しもう / 春日山酒造	16
	奈良漬のできるまでとおいしい食べ方講座（お土産つき） / 奈良屋本店	9
	レンガ蔵での醤油造り 観て・香って・味わって（お土産つき） / イゲタ醤油（株）井上本店	14
巡ル奈良町	コミュニティ 駅長さんの京終駅舎案内 コールダックのKちゃんも参加 / 京終駅舎	8
	まちかど博物館ツアー きたまち編	13
	きたまち近代建築めぐり	15
	東大寺国宝建造物の魅力と匠の技を訪ねて	8
	まちかど博物館ツアー ならまち編	8
	中将姫ゆかりの寺院をたずねる	14
	町名由来板を巡ル	24
	ならまちに眠る元興寺の礎石を訪ねて（お土産つき）	5
	高畑・柳生街道をゆく	10
	大学生がご案内！京終エリアの見知ルを巡る！ / 京終駅舎・町屋ゲストハウスならまち他（お土産つき）	8



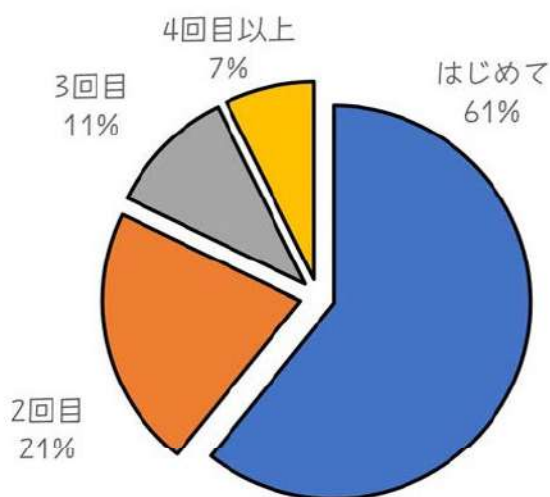
どこから来ましたか？

奈良県外の内訳

近畿地方
大阪府30人、京都府13人、兵庫県7人
和歌山県1人
関東地方
神奈川県7人、千葉県6人、東京都5人
群馬県1人、埼玉県1人
東海地方
静岡県4人、愛知県2人、三重県1人
北陸地方
石川県2人
中国地方
広島県1人
四国地方
香川県2人

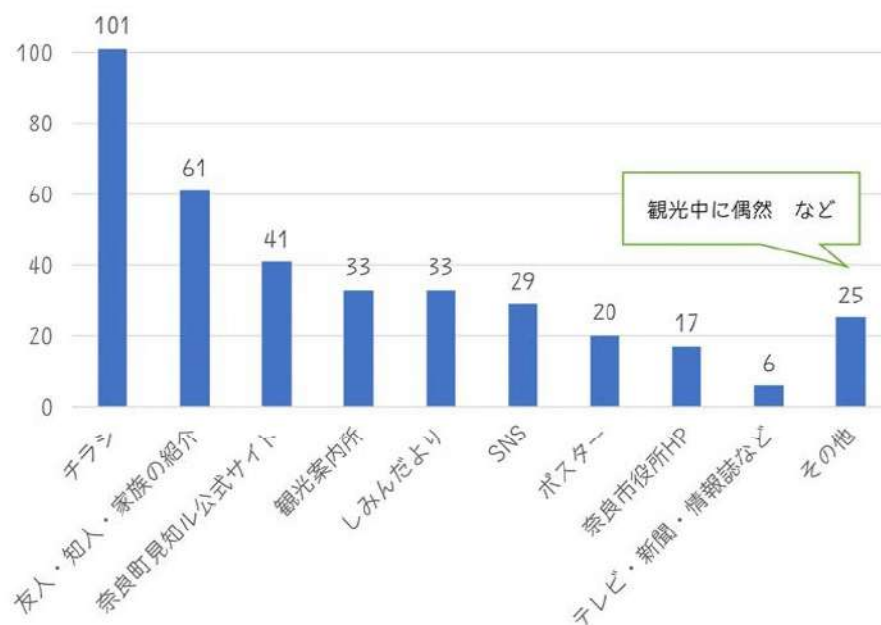


奈良町見知ルへのお越しは
今年で何回目ですか？

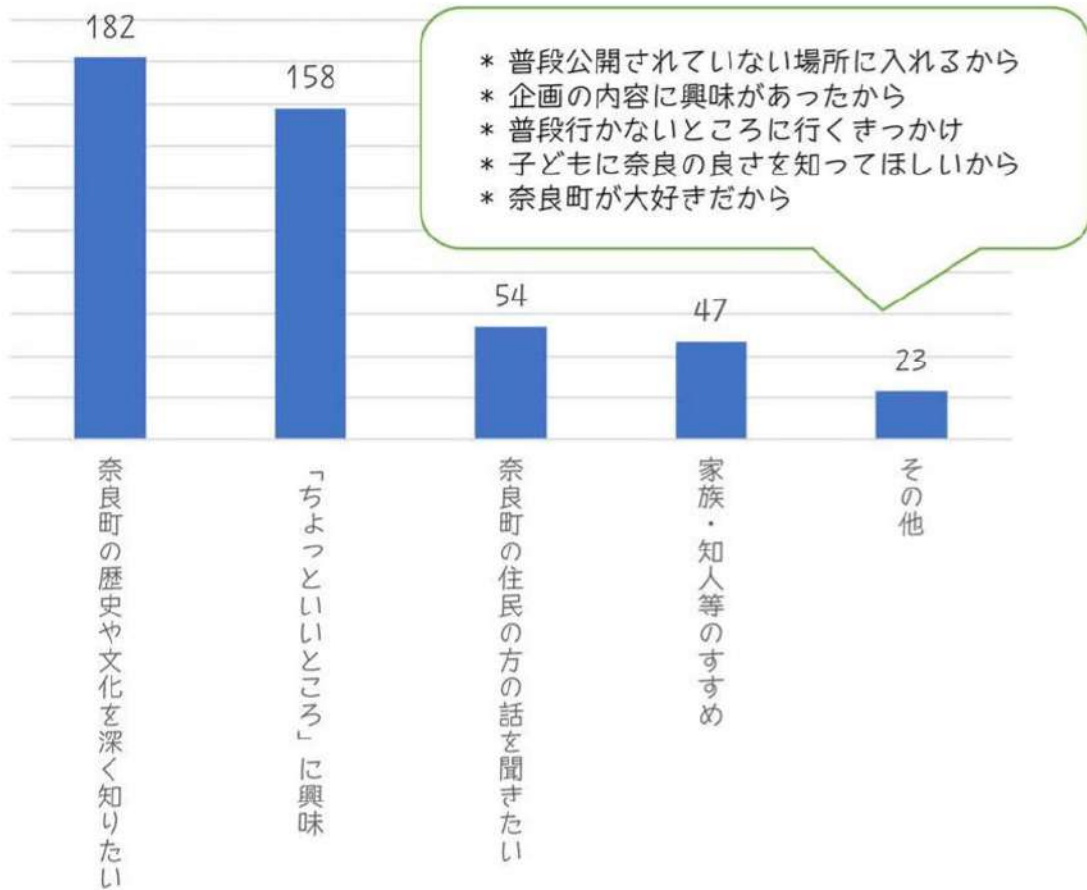


見知ルを知ったきっかけ

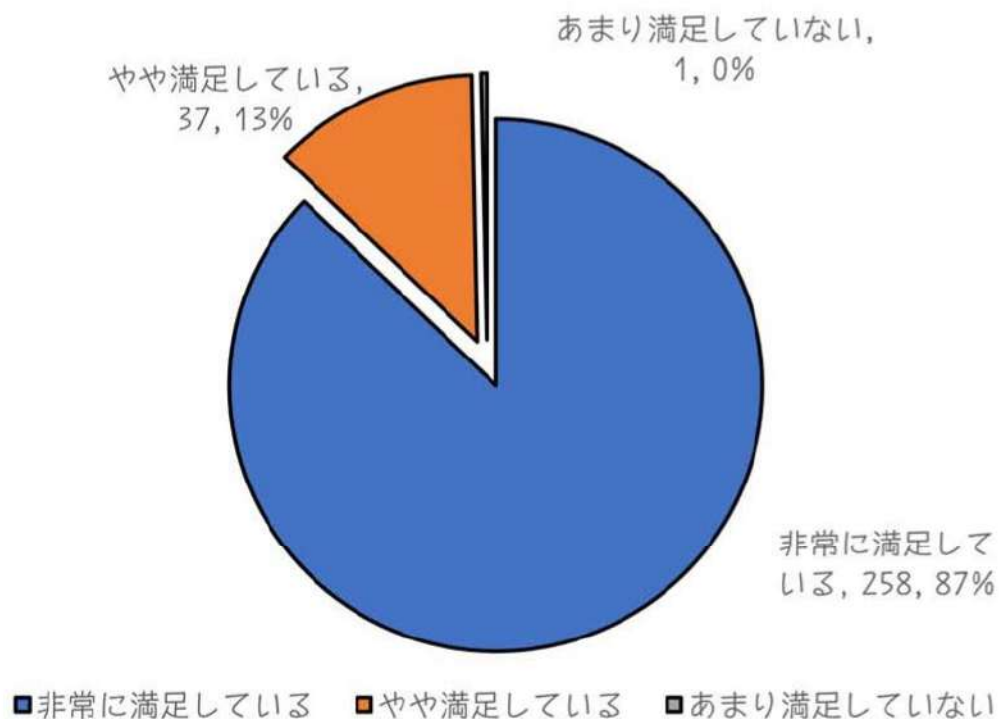
■ はじめて ■ 2回目 ■ 3回目 ■ 4回目以上



奈良町見知ルにお越しいただいた理由



奈良町見知ルに参加していかがでしたか



奈良町見知ル アンケート結果（自由記載欄）

全体

- ▷ 丁寧な説明をしていただけてよかった。
- ▷ 普段見る事のできない場所、文化、仕事などとても面白く感じられます。
- ▷ ふだん歩かないみちを歩いて新しい発見をしたい。また後日ちがう時にひとり歩きたい
- ▷ シール集めが楽しかったです。行った先で詳しく説明してもらえて、説明なしで見るとより深く知ることができて良かったです。古いものがいろいろ残っていてそれが生かされているのが奈良の魅力だと思いました。
- ▷ 奈良にはいいところがたくさんあるのでどんどんやってほしいです。
- ▷ 一人で歩いていては知る事の出来ないDeepな奈良をこれからもご紹介下さい。
- ▷ 外国人の方のガイドをしています。海外の方にも興味深い内容とテーマだと思います。
- ▷ 大変でしょうが、ずっと続けて秋のイベントの定番化すれば嬉しいです！！

知ル_工場跡

- ▷ 工場跡事務室はまさに「ちょっといいところ」で知れば知るほど興味関心が深まります。
- ▷ 工場見学も楽しくお食事もカラフルで美しく感動しました。ありがとうございました。
- ▷ 昨年に引き続き工場跡のガイドに参加しました。二階堂先生、喜多様の解説がすばらしく、今後に残してほしいと切に思います。来年もできれば参加したいです。

知ル_おんまつり

- ▷ 実際にみなさんでかけ声、所作等できて楽しかったです。
- ▷ おんまつりの話、実際の所作が楽しかった。
- ▷ 普段触れ合いにくいテーマのイベントで楽しかったです。
- ▷ 春日大社の大宿所に入れていただき貴重な体験ができました。

知ル_春日山酒造

- ▷ 春日山酒造さん、建物もお酒も、お話も、大変いい時間でした。
- ▷ コーヒーリキュールの販売まっています！！
- ▷ また来たいです。ノンアルも試してみたいです。
- ▷ 春日山酒造様でたくさん種類のお酒を楽しませて頂きました。大変満足しております。大盤振る舞いありがとうございました。
- ▷ 升平を全種飲みました。
- ▷ きき酒等体験が併うと満足感が非常に高まります。奈良市に在住ですが、まだまだたくさん知れるいい機会になりました。
- ▷ 蔵見学がなかったのは少し残念でしたが、普段飲まないリキュールなど、たくさん試飲ができて良かったです。

知ル_奈良漬

- ▷ 奈良漬の美味しさの理由を知りたかった。

知ル_イゲタ醤油

- ▷ 父の生家が岐阜でみそとしょうゆを作っていたので、父のルーツを知りたかった。
- ▷ 奈良に去年越えてきて、すばらしい食文化に感動して、いろいろなところに行かせてもらっています。井上さんのこうじで作った味噌、できました。これからも様々な企画期待您的しています。
- ▷ とても感謝しています。昔ながらの産業が続きますように。
- ▷ とってもお話が楽しく、色々勉強になりました。おしょう油もおいしく、購入して帰ります。ありがとうございました！キャンセル待ちして良かった

巡ル_きたまちまちかど博物館

- ▷ 少し前にきたまち散策をしてよかったのともっと知りたいと思ったから。
- ▷ 特に鹿せんべいを作りだしている工場に行ってみたかったのだ。
- ▷ 鹿せんべい工場が見たかったから

巡ル_近代建築

- ▷ 「なうり」を読んで、奈良の近代建築を見学したいと思っていました。
- ▷ 佐保会館が見学したかった。

巡ル_ならまちまちかど博物館

- ▷ 尾花さんのお話。すごく楽しかったです。
- ▷ 私は大阪で奈良ではないので知らないことだらけで。寺や神社はもうほぼ全部行ったので奈良のこと知った気でしたけど、まだまだ興味深いことがあるなと思いました。このあたりをこまかく散策したいと思いました。尾花deキネマ、見に来ます。

巡ル_中將姫

- ▷ 当麻寺の近くに住んでいて、なら町が中将姫ゆかりの地であることを4年前くらいに知り、ぜひ拝観したいと思っていましたのでありがたかったです。普段は入れないお寺の中に入れていただき、ご住職方のお話をじかに聴けて大満足でした。
- ▷ 分かりやすい説明と資料で、中將姫のことが知りたかったのだ、とても良かったです。

巡ル_町名由来板

- ▷ 近くに住んでいるにもかかわらず、地名が読めないのだ。

巡ル_京終ガイド

- ▷ 京終の地元の方たちの話を聞いてよかったです。
- ▷ 奈良が大好きな友人のすすめでしたが、私も昔母からよく奈良の話を聞かされていたので関心がありました。

京終駅舎 7枚



Thank you!

The Japanese sweets
were beautiful.
We loved the gardens and
everyone was so sweet.
Again, Thank you.
Emily and Zane - ^{Tasmania} Australia

Thank you for the wonderful
tour & delicious sweets!
We especially loved the
Autumn - Color Smoothies! See you
again soon!!

Love Amy & Nick
Canada England

奈良町に

こんな静かな
場所があったんだ!
素敵は気付き
がある秋です。

秋の一日

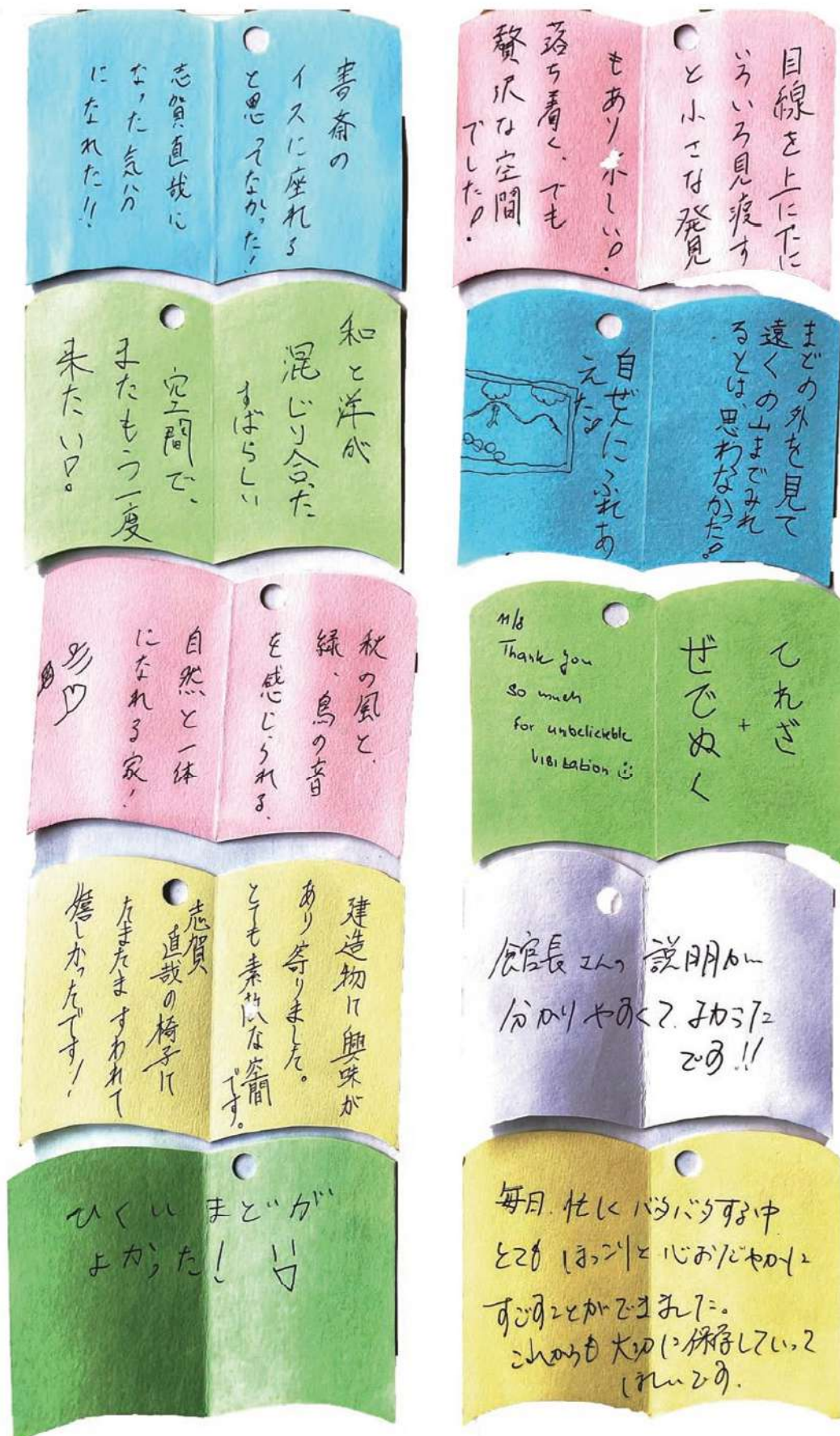
おいしいコーヒーと
一匹のかまきりに
出会いました

正倉院展のあと

来ました。涼しい風に吹か
れ、コーヒーがおいしかったです。
今、かまきりバリエーション
らを見ています!

縁側からの景色で

秋を感じられました
ずっと来てみたかったんで
この季節に来て嬉しかったです



とてもステキなところ。
じっくり見てまわれるのが
嬉しい!!

志賀直哉
自身が認知
したという
のがすごい。
庭かすの
なかがめが
すばらしい。

こんな家をも
建ててみたいと思ったり。

いつ来ても
ゆっくりできる

開放感が
ある
又ある

椅子に
座る
ふらふら
お気に入り
なりそう

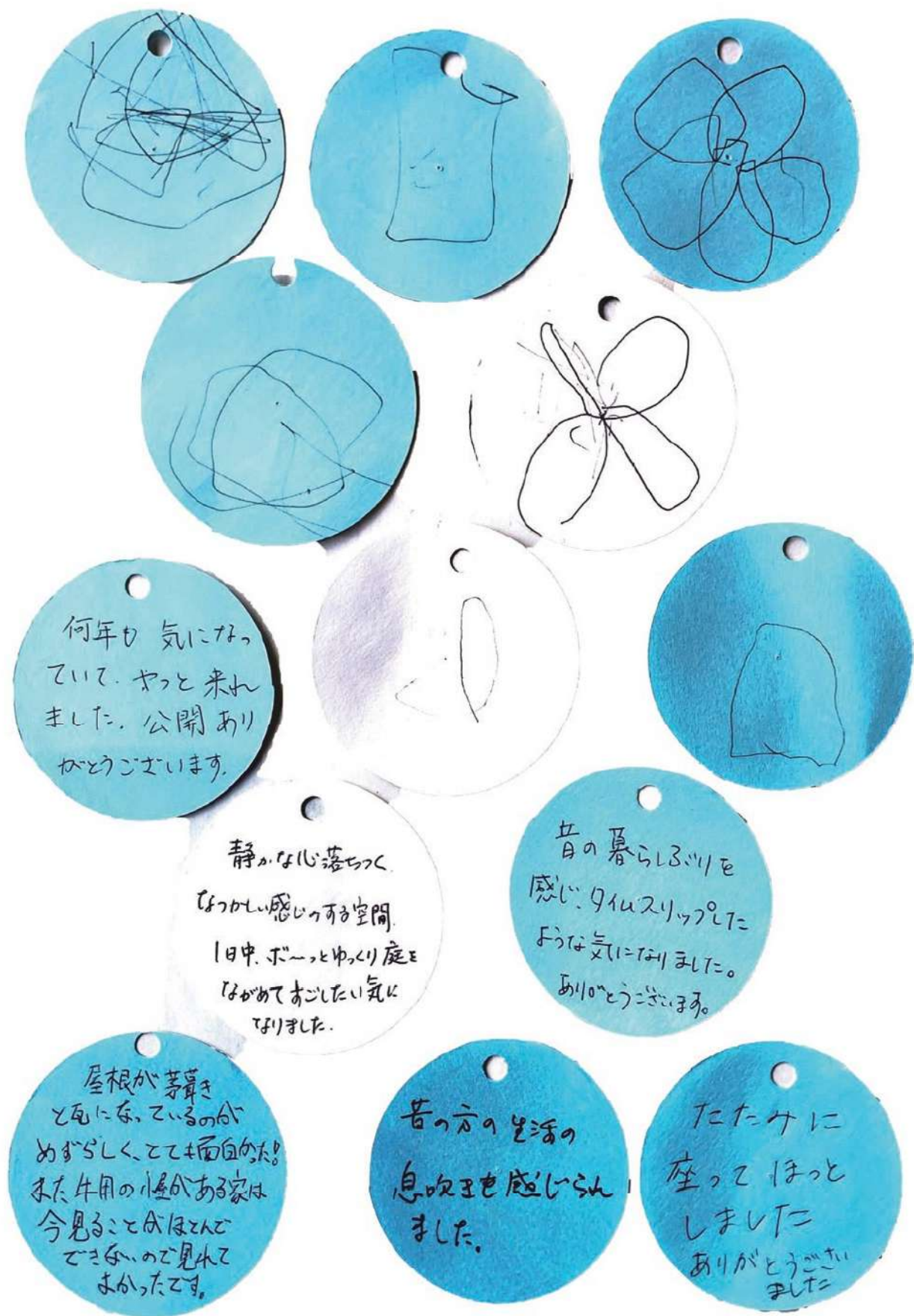
楽しかった。
小森先生がとま。に場所が
知れてよかった。しゃいのいすに
すわってうれしかった。

2階のまどからみる
けしきがとてもきれいだった。

11月7日

イベントがやっていることを知らず。
いつもの散歩で立ち寄ったのですが、
先生がわけて使用していたという
書斎のいすに座ることかできて。
すごくうれしかったです。
このイベントがきっかけで先生のことを
より多くのちに伝えようように。

とても楽しかった。
とくに、書斎のいすに
座って見る景色が
最高だった。



いつも、前を通ってました
から、家の中を見たいと思って
おりましたか。今回思いがけ
ないました。見学できて、
良かったです。生活させて
いただくの、様子がいい
ですね。

音の家はやはり
ずいぶんいいですね。
今の時代、かみい
ぶつける人が多い!

めずかしい屋根
に驚かされた。

とても素敵な
建物です。
大事にしたいです。

貴重で、建物を
拝見できて
いい。たす。

土壁に下らん(くらくらして
いる) コニクリとヒコヒコ
土間、タタミで、しょうか
屋内に、井戸が、外に
比べ、みずが、といて、
「あつた、ふんいさ
で、い。

有難うと、い
ました。300年、想像
もどきない、時、
日本の、建築、で、物、は
あつた、い、さ、
いつまでも、残、ま
る、よう、に

保存のために、ご尽力
くださり、ありがとうございます。
素晴らしい空間と時間を
味わわせていただきました。

大変、ほつ、り、する
場所、です。
タイムス、た、
感、い、です。

「大和棟」初めて
知りました!
貴重な機会を、ありがとうございます。
ごさいまは、(う)

中に入れて
よかったです。
です。

居、る、の、さ、え、
さ、い、か、り、

45年間
三井、豊、苑、に、来、て、い、て
は、お、め、て、こ、こ、の、公、開、に
出、会、え、ま、し、た、
あ、り、が、と、う、ご、ざ、い、ま、し、た、!

歴史を感じる
空間で、いじめる

牛さんとおうちの
中で飼っておら
れたとは！
大切にされていた
んですね。

牛と一緒に暮らして
いたということが衝撃
でした。今よりもっと
身近な存在としての
牛だっただけです。

いいものは
いつまでも
残しておきたい
ものです。

牛さん、お久しぶりです
ここにいます。

貴重な財産
よくのこさしました。
これからも守って
くたさいね。
牛さん、お久しぶり
です。

お久しぶり
すんでみた
家です。

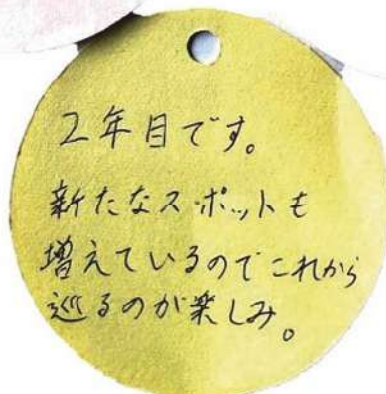
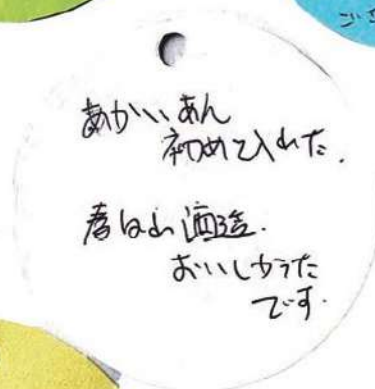
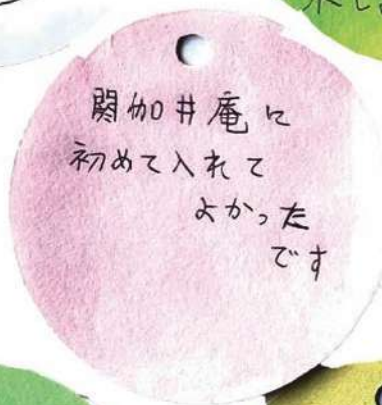
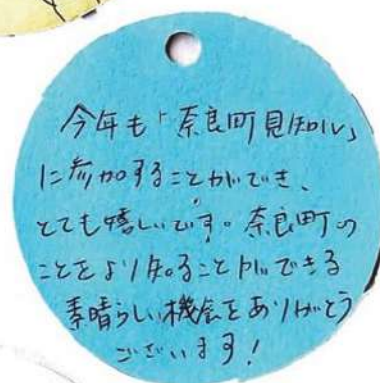
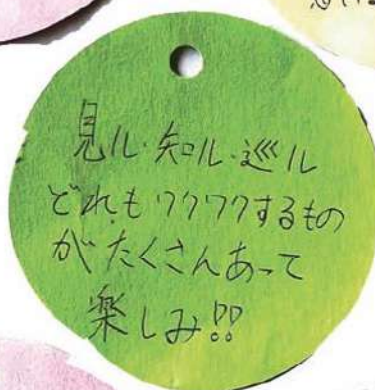
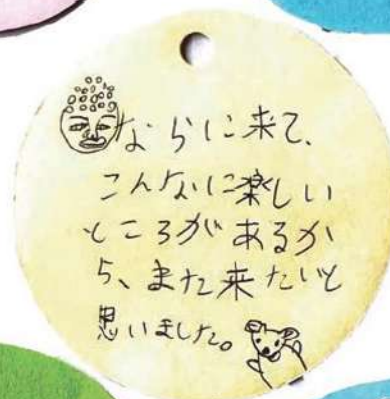
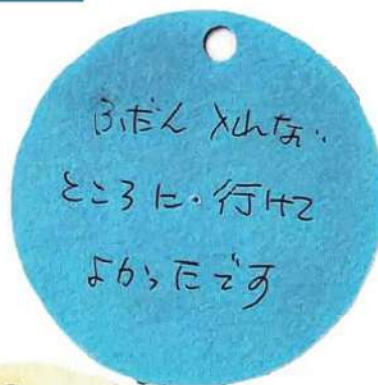
台所の梁が「ヤ
ッヤ」と立派なの
が印象的でした
ありがとうございます
ごきげん。

懐かしいホッとする
空間でした。
ずっと大切にしたい
欲しいです
ようこ

お久しぶりさん、お久しぶり
今にも帰ってこれそうに
感じます。
ありがとうございます
ました。

昔の懐かしい
日本の美や気持
を感じました
ここに暮らしてよかった
です。

インフォメーションブース 12枚



第 2 部

奈良町見知り 開催までの歩み



奈良町見知ル実行委員会

Newsletter No. 17

第1回実行委員会 2024年4月26日(金)



奈良町の ちょっといいところを 見て知る秋の1週間

—きたまち・ならまち・高畑・京終・紀寺—

奈良町見知ル



2024



4年目、奈良町見知ル始動！！

私たち・・・もしかして思っている以上にマニアック！？

みなさん、ご無沙汰しております。昨年2023年12月に最後の実行委員会を開催してから、早3ヶ月。今年もやってまいりました！奈良町見知ルの実行委員会始動です！

第1回目となる実行委員会は恒例の倉橋みどり実行委員長挨拶に始まり、昨年の反省会からスタートしました。始まって早々な反省会するのか？ということなのですが、開催も4回目ともなるといろいろ見えてきます。とにかくやってみよう！ということで始めた1回目、継続させようと奮闘した

2回目、なんとか形になってきた3回目を経て、やっと自分たちのやっていることを冷静に見つめることができるタイミングになったように思います。

2023年に「巡る奈良町」でたくさんのツアーを企画・運営してみて、大盛況だった企画もあれば、思ったよりも参加者が少なかった企画もあり、「なんでだろうか？」ということも、みんなで意見を出し合って考えました。その結果・・・私たちが企画しているイベントが「マニアックすぎるのでは？」という意見が出ました。例えば、昨年

「礎石を巡る」というツアーを実施したのですが、実行委員会に参加している学生の皆さんに「礎石って知ってるか？」と聞くと、なんと！！「なんとなく？わかるような？わからないような？というか、よく、わかりません！」という返事が返って来るのではないですか！！私たちが当たり前大切にしているものや、素敵だな、魅力だなと思っているものは、あまり知られていないんだ！という驚きとともに、知らない人にどうしたら伝わるか、今年はそこからみんなで一緒に考えていきたいです。

実行委員会のメンバーに話を聞いてご紹介します！



吉田) 奈良町見知れば、各エリアにお住まいの方々の視点にも触れられる良いチャンスだと思います。色んな方々のお話を伺いたいです。どうぞよろしくお願いします。



奈良町見知り実行委員会

Newsletter No. 18

第2回実行委員会 2024年5月24日(金)



奈良町見知りの会議が始まったのは、3年前のちょうど今頃です。全国のまちづくり団体が奈良に集まるので、ホストとなる奈良町でおもてなしにもなるイベントをしようということと、倉橋実行委員長と藤野副実行委員長がアイデアを練って構想を考えました。

きたまち、ならまち、高畑、京終・紀寺といった活動エリアが異なる団体が集まる奈良町で、エリアを越えて一緒にイベントを行うことはほとんどありませんでした。当時、初めての試みということもあって、みんなで大変話し合って作り上げることを大切にしてくまし

た。そのため、見知りの実行委員会とはとにかく会議の時間が長い。1年目は、顔見知り程度のメンバーが寄り集まって、様子うかがいながらということもあり、意見を出し合いつつも、なんとか形にすることで精一杯でした。2年目は、顔見知りから見知ったメンバーという雰囲気になったのもあって、1回目から白熱する会議になったりと、月に1回の長〜い会議を重ねることで仲が深まったように思います。3年目には「見知りの雰囲気」ができあがり、新しいメンバーともその雰囲気の中で関係性を少しずつ育んでいるような感覚がありました。4年

目の今年、気付けば大学1年生だったメンバーが4年生に。人が成長するように、実行委員会のメンバーの関係も成長しているように思います。

今年2回目の実行委員会では、そんなメンバーでエリア毎のちょっといいところである企画の候補について話し合いました。時間をかけて議論した今年の企画、どんな企画になるのか、ぜひ楽しみに！

奈良町見知りでは、実行委員会と同じく、企画を作って参加する皆さんやボランティアの皆さんとの関わりも大切にしています。次回は、企画交流会の様子をご紹介します！



聞ク読ム見知ルの実行委員

実行委員会のメンバーに話を聞いてご紹介します！



実行委員長 倉橋 みどりさん

＼私がインタビューしました！／



天理大学生涯教育専攻 2 年生 瀬川 芹華

瀬川) 自己紹介をお願いします。

倉橋) きたまち Consent に所属している倉橋 みどりです。奈良町見知ルの実行委員長を 1 回目から務めていて、今年で 4 年目になります。

瀬川) 4 年目の実行委員会、出だしの感触は？

倉橋) 今年の雰囲気も例年と変わらず、意見が言いやすい雰囲気も上手に実行委員のみなさんがつくってくださっているのが嬉しく思っています。

4 年目の今年は、もう少しより良いものを目指したいなという「欲」が出てきています。さらに充実したものにしていくなためにもっともっとみなさんの意見を取り入れたいなという、そういう気持ちです。ただ、もっと良くしたいを追求しすぎると時間が足りないので、バランスをどうとるか悩みながら取り組んでいます。見知ルの実行委員会面白い組織で、普段集まらないような人たちが一堂に集まって取り組んでいるのですが、違う団体に所属しているだけあって、それぞれ価値観や考え方が全然違う。日頃は別々の活動をしている人が月に 1 回だけ集まって話し合っ物事を決めていく、そんな場がすごく面白いところであり、かつ、意見をすり合わせる重要な場だと思っています。それぞれの立場での「もっと良くしたい」という思いを尊重しながら議論してまとめていく、その時間も大切にしたい。面白さと難しさを感じています。

瀬川) 今年の意気込みをお願いします。

倉橋) 奈良町見知ルというイベントを世界中の人に知ってほしいという気持ちが芽生えています。成り立ちやプロセス、メンバーも含めていろんな人に知ってほしい、ぜひいろんな町で見知ルを真似してほしいと思っています。自分たちの町のちょっといいところをイベント化して、外の人にも、地域の人にも楽しんでもらう。それを広告代理店などではなく地域の自分たちの手でつくっていく、それがあってない魅力だと思うので、同じような取り組みが世界中に広がっていったら素敵だなと思いながら頑張っています！

次回の実行委員会等

第 3 回 2024 年 6 月 27 日 (木) 19:00 ~

第 4 回 2024 年 7 月 26 日 (金) 19:15 ~



奈良町見知ル実行委員会 Newsletter No.18

2024 年 6 月 25 日発行

編集責任者：田中 梨絵 (天理大学)

インタビュー記事：瀬川 芹華 (天理大学学生)

連絡先：r-tanaka@sta.tenri-u.ac.jp



© 奈良町見知ル実行委員会 2024



ポン、ポン、ポンッ！と今年も紙風船でアイスブレイク！

企画交流会は、奈良町見知りで企画を作っているみなさんが集まる貴重な機会です。イベント期間中は、それぞれの活動場所でも忙しい。お客さんとは顔を合わせても、企画と一緒に作り上げているメンバーと会う機会がほとんど無いというのが、見知りの課題。企画を実施していて「こんな風にやったら喜んでくれた。」とか、「企画に悩んでいるんだけど、どうしたらいいかな。」といった情報や悩みを共有する場があれば、みんな楽しく、より良い企画にすることが出来るのではと、2年目からこの企画交流会を行っています。

今年は、各エリアから8人の企画参加者と、実行委員会企画

の担当者11人、ボランティア1人、実行委員3人の総勢23人が集まりました。交流の時間は3つのグループに分かれて、恒例の紙風船で始まりました。緊張がほぐれたところで、昨年までの企画での工夫や苦労、成果や課題を共有したり、今年やってみたいことや悩んでいることなどを話し合ったりして、時間があっという間に過ぎてしまいました。まだまだ話し足りない！という雰囲気もあり、それぞれのグループで充実した時間を過ごせたようです。

今年初めて企画交流会に参加した「庚申堂」の西新屋町自治会長の植嶋さん。「奈良町見知りの趣旨がわからないまま交流会に参加しました。最初は専門

的な人の集まりなのかと思っていたのですが、グループの中で、地域が持つ雰囲気を楽しんでもらいたいという話が聞けて、専門家でないまちの人でも関わることが出来るイベントなんだと安心しました。これなら自分たちにもやれることがあるのではと思います。」と参加した感想を話してくださいました。

どんな話し合いが行われたのか、グループでの交流の様子は、学生が紹介します！

☆見ルAグループ☆

私のグループでは、企画をより良くするにはどうしたらいいかを話し合いました。現状の問題点の一つは、企画をつくる自分たち自身が専門家ではないた



めその場に居てもお客さんの質問に答えられないこと。もう一つは、普段の生活がある中で、見知ルの開催期間中ずっと説明する人をつけるのが難しいことです。この2つの問題点に対して、見知ルの良さは専門性の高さではなく「地元の人が語る」なまの声にあるといった意見がでました。その声を直接届けられたら一番いいけど難しいので、QRコードを読み取れば説明の音声が流れるような仕組みのアイデアが出ました。

交流会に参加して、専門性や日常生活との兼ね合いなど、地域の人が開催するからこそその問題があると知りました。奈良町見知ルの意義は、なによりも地元の人と一緒にやることにあります。簡単な話ではないと思うので、それが実現出来ていることに驚きました。難しさもあると思いますが「地元の人が語る」ということを大切にしながら、これからも一緒に続けられるような工夫をしていくと良いと思いました。

天理大学 生涯教育専攻
2年生 和田 恵歩

☆知ルBグループ☆

このグループでは、今年の企画を更によくするにはどうしたらいいかという相談が行われました。その中から京終駅舎の企画をピックアップします。

駅舎だけでなく外の芝生の広場をどう活用したらいいか、京終駅の目玉になるような企画をつくりたいといった相談がありました。築約130年の木造駅舎の京終駅は、かつては物流の拠点として活躍していたといいます。歴史の跡がたくさん残っているだけでなく生活の積み重ねからうまれた奥深さがある、そういった良さを企画にしてみたらどうかといったアドバイスがありました。

交流会では、企画者それぞれが異なる立場や考えから、さまざまな視点でアイデアを出しあったため、一人では思いつかないような内容がたくさん出てきました。グループでの話は背中をおしてもらえようという優しい言葉で溢れているように感じられ、素敵な企画がさらに進化していくような感覚になりました。奈良町に詳しくない私で

も、それぞれのエリアの個性や魅力が感じられて、どんな企画が出来上がるのかとても楽しみです。

天理大学 生涯教育専攻
2年生 瀬川 芹華

☆知ル・巡ルCグループ☆

知ル・巡ルのCグループでは、「去年の企画の振り返り」と「今年やってみたい新しい企画」の二つが共有されました。

振り返りでは、よかった点としてお客さんが地域の人から話を聞いたことを喜んでしたこと、反省点としては解説が難しすぎたこと、また、時間がおしたことが共有されました。

やってみたい企画の話になると、グループメンバーからアドバイスをたくさん出て、相談した人が「今年はこんな感じでやってみようかな!」と、前向きに企画を考えている様子が。ワクワクするような面白い企画の話が出ていたので、今年の見知ルがより一層楽しみます!

私は今年も「巡ル」企画を実施するので、参加者一人一人に楽しんでもらえるよう、時間に余裕を持つことに注意して、地域の人たちから教えてもらった「地域のここが面白い!」をたくさん伝えられるように頑張りたいです。交流会に参加して私もみなさんと一緒に奈良町見知ルをより良い企画にしていきたいと思いました。

天理大学 生涯教育専攻
3年生 門内 緋里



奈良町見知ル実行委員会 Newsletter No.19

2024年7月26日発行

編集責任者：田中 梨絵（天理大学）

インタビュー記事：門内 緋里（天理大学学生）
瀬川 芹華（天理大学学生）
和田 恵歩（天理大学学生）

写真：瀬川芹華、香川 万里子（天理大学学生）

連絡先：r-tanaka@sta.tenri-u.ac.jp



© 奈良町見知ル実行委員会 2024



奈良町見知ル実行委員会

Newsletter No. 20

第3回実行委員会 2024年6月28日(金)



みなさん、こんにちは。奈良町見知ルの準備も着々と進んできております。今回は第3回実行委員会の内容を報告します。奈良町見知ルの企画を作ってくれている人たちや関わってくれているメンバーが集まる企画交流会が終わり、だいたい今年の企画の全体像がみえてきました。第3回の実行委員会では、今年の企画を出してくれそうなところを確認し合って、今年のガイドブックのイメージを共有しました。今年の企画は25企画前後になりそうです。企画が最終決まるのはもう少し後ですが、どんな企画が出そうなのかとても楽しみです。

さて、この奈良町見知ルの企画の中に、実行委員会が主催する企画と、実行委員会以外の地域の人や団体・組織が主催する企画というものがあります。実行委員会が主催する企画は、実行委員会に参加している団体や個人が担当して企画を作っています。例えば、高畑住民の松岡さんがメインで担当する高畑ツアーといったように、実行委員会では奈良町見知ルのイベント全体の運営をするとともに、メンバーそれぞれも一企画者となって、企画を作って実施しています。今年の実行委員会企画では、地元の人が話をする「お話の会」を毎年行おう！という

ことになりました。奈良町見知ルの最初の年に、京終エリアで地元の人が行っているお祭りの話を聴く会がありました。運営のお手伝いをしたのですが、来てくださったか皆さんがとても熱心に話を聴いていたのが印象的でした。専門的な話ではなく、実際にお祭りを行っている人の想いや行っている内容が聴きごたえがある話だったのだと思いますし、お祭りを大切にすまちの人自身も奈良町の魅力になっているのだと思います。今年は、おん祭の行列に関わる人にお話しをしてもらえるように調整することになりました。どうぞお楽しみに。



聞ク読ム見知ルの実行委員

実行委員会のメンバーに話を聞いてご紹介します！



副実行委員長 藤野 正文さん

＼私がインタビューしました！



天理大学生涯教育専攻2年生 和田 恵歩

和田) 自己紹介をお願いします。

藤野) 公益社団法人ならまちづくりセンターの藤野 正文です。奈良町見知ルでは副実行委員長を4年目務めています。

和田) 見知ルを行うことになったきっかけは？

藤野) 4年前に奈良で全国町並みゼミという集まりがあって、そのときのテーマが「まちの資産の活かし方 何を・誰が・どのように」でした。このテーマを考えているときに、奈良のまちの資産って何だろうと・・・それがきっかけで、みんなでまちの資産を考える、イベントではないムーブメントになるような活動をつくりたいと、奈良町見知ルが始まりました。

和田) 4年目の実行委員会の感触は？

藤野) 最初の時より落ち着いてきています。長く続けていくということで、今年できないことは来年やろうというカタチが出来てきつつあります。実行委員会の中でも繋がりが深まっていて、新しい人も入ってくれているので嬉しいです。ずっと同じメンバーだけだと、マンネリ化してしまったりするので、新しい人が加わってくれることはありがたいです。

和田) これから奈良町見知ルで取り組みたいことは？

藤野) 個人的な構想ですが、「格子アート」をやりたいです。町家が並ぶ奈良町では格子が一つのまちの特徴だと思っているのですが、いま格子自体があまり注目されなくなっているように思います。でも、格子は面白くて中から見れば外が見えて、外からは中が見えない、人の出入りは出来ないけど風がとおる。中にいる人と外にいる人が凄く近い関係でいられる存在です。だからもっとみんなに関心を持って欲しい。そのきっかけとして見知ルで格子アートができたらなと思っています。奈良町は格子を持っている家が多いので、見知ルをきっかけにまちの人が「自分の家でもやってみようかな」と、参加のきっかけに思ってもらえたら嬉しいです。このように見知ルにまちの人が参加してくれることも、まちの資産になるんじゃないかなと思っています。

学生セレクト！実行委員会でわからなかった言葉3選！！

- 1、白丁・・・鳥だと思ったけど違うらしい。正解は、お祭りで白い衣装を着る役の人。
- 2、格子・・・人が閉じ込められるようなところという印象。正解は、町家の開口部によく用いられる表構え。
- 3、礎石・・・夏目漱石的な響きで人の名前だと思った。正解は、建物の基礎に使われる石。



奈良町見知ル実行委員会 Newsletter No.20

2024年7月26日発行

編集責任者：田中 梨絵（天理大学）

インタビュー記事：和田 恵歩（天理大学学生）

写真：瀬川 芹華（天理大学学生）

連絡先：r-tanaka@sta.tenri-u.ac.jp



© 奈良町見知ル実行委員会 2024

今年の企画が確定！全部で28企画！

実行委員会が始まって4ヶ月、ついに今年の企画が確定しました！！今年は、見ル奈良町が10カ所、知ル奈良町が8カ所で9企画、巡ル奈良町が9企画と、合計28企画になりました！

今年初めての企画は、見ル奈良町の元興寺塔跡と閑伽井庵。元興寺塔跡は、その名の通り、かつて元興寺の塔が建っていた場所。奈良時代の創建以来の塔が江戸時代まで残っていました。残念ながら焼失してしまったのですが、今も当時の礎石が残っています。高さ50mものとても大きな塔だったと伝わっているとおり、その礎石もとても大きい。奈良時代に思いを馳せることができるロマンあふれる場所です。閑伽井庵の閑伽とは、仏教用語で仏前にお供えするお水のこと。今回公開される閑伽井庵は、地元では奈良時代からの井戸を守るお寺で知られています。どんな素敵な場所なのか、ぜひ見知ルで訪ねてみてください。

知ル奈良町は、なんとと言ってもたくさんの「食べる」企画！恒例の工場跡のランチつき講座やイゲタ醤油の工場見学に、昨年からはまった旅籠長谷川のきな粉雑煮や奈良春日山酒造に加えて、今年は、奈良屋本店の奈良漬、古民家で食べる炊きたて朝ご飯など、食べる講座が盛りだくさん！ぜひ、奈良町の魅力を味わってください！

最後の巡ル奈良町では、きたまちの建築ツアーが充実。模型づくりの名人が、東大寺の国権建造物の魅力を模型と実物で存分に紹介するツアーや、きたまちの木造近代建築を巡る企画が初登場！ぜひお楽しみに。

< 2024年の見知ル企画概要 > 見ル奈良町

- ・北山十八間戸
- ・五劫院
- ・旧細田家住宅
- ・佐埜家住宅
- ・法徳寺
- ・今西家書院
- ・庚申堂
- ・元興寺塔跡
- ・志賀直哉旧居
- ・閑伽井庵

知ル奈良町

- ・工場跡 産業遺産ガイド
- ・旧細田家住宅 かまどご飯
- ・春日若宮おん祭子供大名行列
- ・旅籠長谷川 きなこ雑煮
- ・奈良春日山酒造
- ・奈良屋本店 奈良漬
- ・イゲタ醤油 工場見学
- ・駅長さんの京終駅舎案内

巡ル奈良町

- ・まちかど博物館ツアー (きたまち／ならまち)
- ・きたまち近代建築めぐり
- ・東大寺国宝建造物を訪ねて
- ・中将姫ゆかりの寺院
- ・町名由来板を巡る
- ・元興寺の礎石を訪ねて



- ・高畑・柳生街道をゆく
- ・大学生がご案内 京終エリアの見知ルを巡る

以上、開催日時は9月中旬に
公式サイトでお伝えします！！

聞ク読ム見知ルの実行委員

実行委員会のメンバーに話を聞いてご紹介します！



天理大学社会教育学科 杉山 晋平さん

＼私がインタビューしました！



天理大学生涯教育専攻2年生 瀬川 芹華

瀬川) 自己紹介をお願いします。

杉山) 天理大学の杉山 晋平です。

瀬川) 天理大学は見知ルに参加して3年目ですが、どんなふうに関わっていますか？

杉山) 天理大学として、また大学教員としてどのようにかかわれるのか、最初の頃が一番動きまわっていました。私たちの専門分野は「社会教育」というんですが、まちづくりの隣接領域なんです。奈良町見知ルにかかわる皆さんが楽しくのびのびと活動し、まちの魅力を再発見しながら、それをより多くの方々に共有していけるよう、下支えしていくことを目指しています。その一環として、これだけ多くの方々がかわる奈良町見知ルの動向をみんなで共有するニュースレターをつくってきました。それだけでなく、奈良町の皆さんに指導や助言をいただきながら、学生たちもまち歩きガイドに挑戦する機会をいただいています。学生ともども、当日までの準備にしっかり時間をかけていく大切さ、表に見えてこない仕事の大切さを学ばせていただいています。

瀬川) これから奈良町見知ルで取り組みたいことは？

杉山) そうですね。実はまだ、それを探しながら参加しているというのが率直なところ。僕自身は歴史や建築などを専門としている身ではなく、皆さんについていくのが必死なんです。笑。ただ暮らしの息遣いを感じられる、人のつながりや物語が確かに感じられる奈良町に魅せられています。やっぱり「人」、ですね。奈良町の魅力とともに、そこで生まれる営み、それを大切にしてきた「人」の魅力に光を当てていきたいです。果たしてどんなことができるかな、時間をかけて楽しく考えていきます。

次回の実行委員会等

第5回 2024年8月23日(金) 19:15～

第6回 2024年9月27日(金) 19:00～

第7回 2024年10月25日(金) 19:00～



奈良町見知ル実行委員会 Newsletter No.21

2024年8月23日発行

編集責任者：田中 梨絵 (天理大学)

インタビュー記事・写真：瀬川 芹華 (天理大学学生)

連絡先：r-tanaka@sta.tenri-u.ac.jp





奈良町見知り実行委員会

Newsletter No.22

第5回実行委員会 2024年8月23日(金)



オリジナルグッズ、どうする??

去年、試しに取り組んでみたシールラリー。見知りの期間中に、公開施設で配布されるシールを4枚集めてインフォメーションブースに持って行くと景品がもらえるという仕組み。

シールをデザインして、ラベルに印刷してと、手作り感満載ですが、見ルスポットで配布するハンドアウトや、ハンドアウトに貼ると、結構、可愛い。4スポット巡れば景品と交換という手軽さもあってか、たくさんの方が交換に来てくれました。しかし、残念だったのが…景品。景品も手作りで頑張ったこともあり、控えめな声で「ちょっと…物足りない、かな」という意見もチラホラ。そのため、「今年は景品に力を入れたいね!」と、4月から何度か議論が上がったのが景品を何にするか問題。トートバッグ、手ぬぐい、オリジナルパッケージの

チオレチョコ、付箋、ノート、などなど。食べ物は管理が難しいのではとか、学生メンバーからはノートはほとんど使わない(これは別の意味で、心配になるのですが…)といった意見が出て、候補が拳がっては消えと、なかなか決まらなかったのですが、今回、A5のクリ

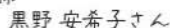
アファイルで検討をすることになりました。景品で、大事なものはデザイン。「もうって嬉しい!」と思ってもらえるように、また、「この景品がもらえるなら、もう少し巡ろう!」と思ってもらえるように、デザインに力を入れて行きたいです!



～お知らせ～

9月20日(金)にイベント情報が公式サイトで解禁されました! チラシも順次配布されます。積極的に告知をお願いします。

実行委員会のメンバーに話を聞いてご紹介します！



天理大学生涯教育専攻 2 年生 和田 恵歩

そんな黒野さん、実は、奈良市役所に入るまで奈良町にはほとんど来たことがなかったそうです。学生時代は地域に関わることに興味があってもなく、大学ではなんと法学を学んでいたそうです。そんな黒野さんがこんなにも奈良町という地域を知り、またまちの良さを知って足を運ぶようになったのも、皆様の溢れんばかりの地元愛が伝わっているからなのではないかと思いました。



奈良町見知り実行委員会

Newsletter No. 23

第6回実行委員会 2024年9月27日(金)



ついに、パンフレット完成！！広報開始！

4月から始まった実行委員会も6回目を迎え、ついに今年のパンフレットが完成しました！なんとなく、ここでいったんやりきった気持ちになりかけるのですが、ここから本番に向けて広報が始まります！知ル奈良町や巡ル奈良町といった予約が必要な企画は、予約でいっぱいになるように、できるだけたくさんの方に情報を届けていかなければなりません。

さて、この奈良町見知りは、奈良町をたくさんの方に好きになってもらえるようにと、ファンづくりのイベントとして実施しています。県外、市外といった外の人にもそうですが、市内でも奈良町にあまり来ないといった人にもイベントをきっかけにファンになってもらいたいと思っています。また、奈良町に住んでいる人には、まちの良いところを再発見してもらい、「やっぱ

りこのまちは良いところだな」と思ってもらいたい。つまり、私たちはとっても欲張りな気持ちでイベントを行っているのです。そのため、ありとあらゆる方向に広報しなければならず、正直なところまだまだ模索しながらすすめています。今年は、ならコープにも協力をお願いしました。たくさんのお客様が来てくださることを願って、残り約1ヶ月、頑張ります！



聞ク読ム見知ルの実行委員

実行委員会のメンバーに話を聞いてご紹介します！



学生団体「あそぶなら」
代表 森本 凜太さん

＼私がインタビューしました！



天理大学生涯教育専攻3年生 門内 緋里

門内) 自己紹介をお願いします。

森本) 近畿大学大学院で建築とまちづくりを学んでいる森本凜太です。学生団体「あそぶなら」の代表と子どもの学習を支える「テラ小屋」という会社を起業して、その代表理事もしています。

門内) 奈良町見知ルに参加したきっかけは？

森本) 奈良町見知ルは2022年から参加しています。今年で3年目ですが、初めは「あそぶなら」として学生とならまをうつないでいくために何から始めようかと考えていたときに、当時奈良市職員だった田中さんや天理大学の杉山さんから「まずは奈良町見知ル」と勧めていただいたのがきっかけです。それから不空院の三谷さんのところの地蔵盆に関わらせてもらったりと、地域の方と密に関わるきっかけにもなったので、大きな転機になりました。自分の中で奈良町見知ルは大きな存在です。

門内) 活動していて印象に残っていることは？

森本) 奈良町見知ルは、日頃一緒に活動していない4エリアの人が集まって作るイベントなので、かなりハードルが高いイベントだと思っていました。実際、初めて参加した頃はみなさんの間に壁があるようにも感じました。でも、昨年の開幕祭ではその壁を感じるものがなくて、どんどん壁が壊されているように思います。壁がなくなっていったのは、やっぱり丁寧に関係作りを進めていったからなんだろうなと思います。大学で「まちづくりは単発で終わってはいけない、続けることに意義がある」と学びましたが、何年も続けいくことの大事さを肌で感じました。

門内) 今年、卒業とのことですが、今後の予定は？

森本) 就職したら関われなくなるのは嫌だという思いもあって、学生が終わったとしても関われるようにするにはどうしたらいいかを考えた結果、その答えの一つとして自分で会社をつくりました。なので、できる限り、いまやっていることを続けていきたいと思っています。

次回の実行委員会等

振り返り会 2024年12月20日(金) 19:00 ~
第8回 2025年 1月24日(金) 19:00 ~



奈良町見知ル実行委員会 Newsletter No.23

2024年10月25日発行

編集責任者：田中 梨絵（天理大学）

インタビュー記事：門内 緋里（天理大学学生）

写真：杉山 晋平（天理大学）・瀬川 芹華（天理大学学生）

連絡先：r-tanaka@sta.tenri-u.ac.jp



© 奈良町見知ル実行委員会 2024



奈良町見知り実行委員会

Newsletter No. 24

ボランティア交流会 2024年10月6日(日)

今年もボランティア大集合！恒例の缶バッチを胸に良い笑顔



奈良町見知りでは、2022年から期間中のイベントを応援してくれるボランティアを募っています。条件は「奈良町のことが好き」であること。ありがたいことに、毎年お手伝いしたい

と思ってくださる方が集まってくれます。3年目になると常連メンバーも増えました。関わる全員が見知りを盛り上げる仲間になれたらとの思いから、ボランティアの最初の集まりは説明

会ではなく交流会を企画しています。今年のメンバーも新旧関係なくすぐに打ち解けてもらえたようで、和気藹々とした楽しい時間になりました。今年もどうぞよろしくお願いします！

ボランティア見学会 2024年10月19日(土)

見知ル開催まで1ヶ月を切りました。この時期は、広報に力を入れる時期でもあります。ボランティアのみなさんとまちの人が出会う大切な時期でもあります。今年はボランティア交流会で庚申堂の見学に行き、2週間後の10月19日(土)に元興寺塔跡と法徳寺の見学に行

きました。元興寺塔跡は、名前の通り、元興寺の塔があった場所です。江戸時代に火事で燃えてしまったので塔はなくなってしまったのですが、当時の塔の大きさを彷彿とさせる大きな礎石がいまも残っています。この日の案内は、塔跡の裏に住んでいる芝突抜町自治会長の井辻さ

ん。塔跡の管理や公開に尽力されていて、月に一回境内のお掃除の奉仕メンバーを募ったりと活躍しています。奈良町見知ルのボランティアのみなさんのために、塔跡の魅力を余すことなく教えていただきました。元興寺塔跡は、11月9日(土)、10日(日)に公開予定です。



次回の実行委員会等

振り返り会 2024年12月20日(金) 19:00 ~
第8回 2025年 1月24日(金) 19:00 ~



奈良町見知ル実行委員会 Newsletter No.24

2024年10月25日発行

編集責任者：田中 梨絵(天理大学)

写真：杉山 晋平(天理大学)・田中 梨絵(天理大学)

瀬川 芥華(天理大学学生)

連絡先：r-tanaka@sta.tenri-u.ac.jp



© 奈良町見知ル実行委員会 2024



奈良町見知り実行委員会

Newsletter No.25

お疲れ様会 2024年12月20日(金)



イベントが終わっておよそ一ヶ月半、2024年の最後の会議は「お疲れ様会」です。年の瀬ということもあり、また、インフルエンザやコロナウイルスが流行っていることもあって、少数精鋭での会となりましたが、みんなで2024年の奈良町見知りを振り返りました。

倉橋実行委員長の挨拶で始まった振り返り会。「参加者数を増やすことだけを目指すのではなく、毎年のように奈良町見知りを楽しみに来てくれる人を大切にしたいという思いが強くなってきました。」と、奈良町を好きになってくれる人を増やすことが大きなテーマだという思いが共有されました。

その後のグループディスカッションでは、それぞれが期間中に感じた良かったことを共有。毎年の課題なのですが、担当以外の企画で他のメンバーがどんなことをしていたのかほとんど

わからないので、この振り返りの時間が全体を知ることが出来る貴重な機会になります。

インフォメーションブースで英語が話やなくても笑顔で外国人観光客を招き入れるボランティアの鈴木さんと、その外国人に得意の英語を駆使して町家の案内をした宮司さんの名コンビの話や、閑伽井庵で10年ぶりに中に入ることが出来たと涙ぐんで喜んだ来場者の話、歴史が苦手な学生が人の思い出や記憶に出会って歴史の魅力に気付いた話など、メンバーが思い思いの良かったところを報告しました。奈良町見知りに行ったら、来場者も、企画者も、スタッフも、誰もが「奈良町のちょっと良いところ」で、「ちょっと素敵なお出合い」や「ちょっと忘れられない思い出」をつくることのできる、そこが良いところなんだと改めて感じました。

2024年の奈良町見知りも終



わり、来年度は5年目になります。「自分たちの手が届く範囲で、まずはできることからやっていこう」とスタートしましたが、私自身は少し背伸びをして頑張っていた部分もあったように思います。節目となる5年目では、奈良町見知りで大事にしていきたいこと、来場者や関係者がどんなところに良さを感じているのか、一つ一つみんなで確かめ合いながら進めて行きたいと思います。

(天理大学 田中 梨絵)

聞ク読ム見知ルの実行委員

天理大学を退職される杉山先生に、奈良町見知ルに参加してきた感想をいただきました。



奈良町見知ルは、奈良町の「ちょっといいところ」を見て知る機会を広く提供・発信することを目指した事業ですが、それを通じて奈良町にかかわる方々、奈良町に暮らす方々も「まちの魅力」を再発見していくという、この2つのプロセスが織り込まれて展開していくところに私は関心を寄せてきました。つまり、各エリアのまちづくり関係者や実行委員の皆さん、ボランティアの皆さん、そして地元の企画参加者・団体といった「奈良町見知ルをつくり支える側」に立つ私たちにとっても、まちの魅力を掘り起こし、学び合って共有し、まちのことをもっと好きになる機会としていける。この点に奈良町見知ルの大きな強みがあると感じています。

もう一点、ここで言う「まちの魅力」の中身にかかわって、気づいたことがあります。私は、大学に所属する立場で奈良町見知ルにかかわらせていただきました。奈良町の「まちの魅力」に触れながら準備や運営にかかわるといのは、私にとって本当に幸せな時間でした。そして、その幸せな記憶は、「まちの魅力」を大切に守り、多くの人に伝えつないでいこうとする「ひと」と「思い」とともに私の胸に刻まれています。私にとって、奈良町見知ルで学んできた「まちの魅力」とは、それをつくり、つなぎ、広げようとする「ひとの魅力」とともにありました。そして、このことが、奈良町見知ルの企画そのものにも反映され、表現されてきたことに気づくのです。

さて、私事となりますが、2025年3月末をもって天理大学を退職することになりました。奈良町見知ルを通じて、皆様とご一緒できた経験は私にとって宝物です。本当にどうもありがとうございました。4月からは明治大学に社会教育主事課程を担当する専任教員として着任します。幸いなことに、奈良町見知ルの開幕の時期は授業の休業期間に重なることもあり、また皆さんに会いに奈良町に戻ってきます。

また、奈良町見知ルの全国発信においては、「東京支部」として少しでもお役に立てたらと意気込んでいます。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

(天理大学 杉山 晋平)



見奈良町
知ル

奈良町見知ル実行委員会 Newsletter No.25

2025年1月24日発行

編集責任者：田中 梨絵（天理大学）

写真：杉山 晋平（天理大学）

連絡先：r-tanaka@sta.tenri-u.ac.jp



奈良町見知ル 2024 を終えて

4年目の奈良町見知ル、みなさんのおかげで無事開催することができました。まずは心から御礼を申し上げます。

今年はNHKならナビで取り上げていただき、少し知名度がアップしたのではないのでしょうか。でも、まだまだもっと多くの人にこんなイベントがあることを知っていただきたいという欲があくむくと湧き上がってきました。

奈良町エリアのまちづくりに関わる団体を始め、社寺や住民の方などいろいろな方の「地域の魅力を知ってほしい」という思いによって企画運営されているイベントであることもこのイベントの魅力となっているとも思います。ある方から「まちづくりと観光は似ているようであまりいっしょにやってこなかったんだよねあ」と聞いたとき、「え？ そうなの！」と驚きました。これまでは、あふいは、よそではそうだったのかもしれませんが。でも、奈良町見知ルでは、地域に暮らす人々にも楽しんでもらい、よそから訪れる人にも楽しんでもらえることを第一回からコンセプトのひとつに掲げてきました。暮らす人にとって居心地がよくて、魅力のあるまちは、訪れた人にとってもきっと居心地がよく魅力あふれるまちであるはず、と確信しています。そして、「奈良町見知ル」は、なによりも、まちの魅力を具体的に発見し、提示し、実感できるイベントでありたいと改めて思っています。

そして、実施している実行委員会という組織が、もっともっと関わるみなさんにとって、居心地よく魅力あふれるものになっていかねば…とも思います。課題はいろいろありますが、ひとつひとついっしょに解決していきましょう。来年もぜひ、「奈良町見知ル」に関わってくださいたらうれしいです。

実行委員長 倉橋 みどり

「奈良町見知ル」を、今年も大好評のうちに終えることができました。これもひとえに、開催にあたってご尽力くださった奈良町地域の皆様、またご来場くださった皆様のおかげと深く感謝しております。

奈良市では、本事業を新奈良町にぎわい構想における「なりまち・きたまち・京終・高畑エリアが連携したイベントの実施」施策として、また歴史的風致維持向上計画の事業として位置付けており、毎年実行委員会の一員として広報及び運営を支援するかたちで関わらせていただいております。

今年の「奈良町見知ル」におきましても、企画参加者やボランティアスタッフの皆様、また来場くださった皆様をはじめ、多くの方々の間に様々な交流や絆が生まれ、奈良町ファンを増やしていただいたことと思います。本事業を契機として生まれた様々な交流が大きな流れとなって地域全体に波及し、これからも奈良町が益々発展していくことを祈念申し上げます。

奈良市観光経済部長 梁山 稔

実行委員会等の開催記録

実行委員会 定例会

- 第1回 2024年 4月26日(金)
- 第2回 2024年 5月24日(金)
- 第3回 2024年 6月28日(金)
- 第4回 2024年 7月28日(金)
- 第5回 2024年 8月23日(金)
- 第6回 2024年 9月27日(金)
- 第7回 2024年 10月25日(金)
- 第8回 2025年 1月24日(金)

企画説明会・交流会

2024年6月14日(金)

ボランティア説明会・見学会

説明会 2024年10月6日(日)

見学会 2024年10月19日(日)

モニター 2024年10月26日(日)

企画参加者・ボランティア ・実行委員お疲れ様会

2024年12月20日(金)

奈良町見知り関係者

実行委員会

きたまち

鍋屋連絡所の保存・活用と“奈良きたまち”の
まちづくりを考える会（なべかつ）
瀬渡比呂志・吉田守・中川崇
転害門前旧銀行建物活用協議会（てんかつ）
山口育彦
きたまちコンサート
倉橋みどり・吉田龍太

ならまち

公益社団法人 奈良まちづくりセンター
藤野正文・二十軒起夫・清水和彦・神野武美
勝野一
奈良町座
勝井ひろみ
さんが俵座
田中宏一
にやらまち猫祭り実行委員会
野村修司

高畑

高畑街道まつり
三谷早苗
奈良屋本店
増田幸彦

京終

京終文殊
安西俊樹
NPO KYOBATE

個人

高畑住人 松岡美希・森田尋子

大学

天理大学社会教育学科
田中梨絵・杉山晋平・香川万里子・門内緋里
瀬川芹華・和田恵歩

学生団体

あそぶなら
川頭史空・森本凜太・竹本心美

役員

実行委員長：倉橋みどり
副実行委員長：藤野正文・田中梨絵
幹事：川頭史空・松岡美希
会計：森田尋子
監事：勝井ひろみ

ボランティア

太田美佳、小竹豊子、鈴木路子、
滝井敏弘、田伐真理子、徳永かよ子、
中島万絵、平井久枝、前川あけみ

実行委員会オブザーバー

奈良市 奈良町にぎわい課
（村上進一 課長・高洋平 課長補佐・黒野安希子）

企画者参加者・協力者

きたまち

奈良県文化財課（寺西勇輝）
五劫院（渡邊良恵）
奈良市教育委員会文化財課（石田淳・中村咲子）
工場跡事務室（喜多和夫）
なべかつ（瀬渡比呂志・吉田守）
てんかつ（山口育彦）

奈良豆比古神社、西福寺、武田商店、植村牧場、
二階堂達郎、なら・観光ボランティアガイドの
会「朱雀」（木原明彦）

ならまち

刀剣ショップ杜園（佐埜好英）
法徳寺（倍巖良明）
さんが俵座（田中宏一・大下誠二・三井田古康記）
今西家書院（今西靖子）
西新屋町自治会（植嶋秀文・勝野一）
元興寺塔跡（池田圭誠・井辻敦雄）
きたまちコンサート（倉橋みどり）
文化創造アルカ（倉橋みどり・石井直子）
奈良町座（勝井ひろみ・田中宏一・林啓文・松山隆）
奈良まちづくりセンター（清水和彦）

元興寺（高橋平明）、高林寺、誕生寺、徳融寺、
ホテル尾花（中野聖子）、春日若宮おんまつり・
子供大名行列保存会（森克容）、春日大社

高畑

奈良学園セミナーハウス（志賀直哉旧居 大原莊司）
閑伽井庵（森田康友）
旅籠長谷川（長谷川嘉信）
文化創造アルカ（倉橋みどり・石井直子）
奈良春日山酒造（森一成）
奈良屋本店（増田幸彦）
高畑住民 松岡美希
不空院（三谷早苗）

京終

イゲタ醤油（株）井上本店（古川修）
奈良市奈良町にぎわい課
（村上進一・高洋平・黒野安希子）
京終駅コミュニティ駅長 丸山清文
天理大学社会教育学科
（門内緋里・瀬川芹華・和田恵歩・杉山晋平
・田中梨絵）

コールドックのKちゃん、奈良県立高円芸術高
等学校音楽科、京終駅コミュニティ駅長 丸山
清文、町屋ゲストハウスならまち（安西俊樹）、
イゲタ醤油（株）井上本店（井上修二）、天理
大学社会教育学科（香川万里子）



奈良町見知り 2024 事業報告書

奈良町見知り実行委員会
2025年2月20日発行

